

12 いわゆる『医師殺人論』の再考察

..... 安江 政一 (名 市 大)

13 西南戦争と大阪陸軍臨時病院について

..... 松田 武 (阪大医学部
環境医学)

14 「大阪砲兵工廠衛生調査報告書」について

..... 小松 良夫 (寝屋川市
小松病院)

15 ベッテンコーフェル生誕一七〇年をめぐって

..... 丸山 博 (箕 面 市)

二 日本医学学会関西支部総会

札幌医史学研究会

昭和五十六年七月、第八二回日本医学学会総会、学術集会が札幌で開催された。これを機会に、医史を研究している人達の間から、北海道においても研究会を持ちたいとの話がでていた。その後昭和六十一年広島における日本東洋医学会総会で、二年後の総会が札幌で開催されることになり、医史学と東洋医学を両輪に研究活動をしたいとの考えから、札幌医史学研究会が発足した。

発起人代表島田保久、発起人津田晴実、高下泰三、水島宣昭、山岸喬、南雲三枝子、谷澤尚一である。

その後の活動内容を紹介すると、

第一回例会(六十一年八月二日)

講演

蝦夷地の本草と医史について..... 谷澤 尚一

蝦夷地における医史の文献について..... 島田 保久

例会後の懇親会で

一 会費は年五、〇〇〇円とする。

二 事務所は島田外科整形外科医院内におく。

三 例会は原則として年六回とする。

四 蝦夷地について幅広い知識を持つために、例会では他領域の専門家に講演をお願いする。

五 六十三年の日本東洋医学会総会の記念品として『蝦夷地の医療』を編集執筆する。

第三回例会(六十一年十月)

講演 古地図からみた蝦夷地の変遷..... 高木 庄治

第四回例会(六十一年十一月)

講演 アイヌの文学について..... 萩中 美枝

第五回例会(六十二年二月)

講演 黄帝内経を中心にー漢代の医学についてー

..... 赤堀 昭

第八回例会(六十二年八月)

講演 国際語としての日本語・アイヌ語..... 村崎 恭子

第九回例会(六十二年八月)

講演 江戸の博物学ー蕨巻会を中心にー..... 佐々木利和

第十回例会(六十二年九月)

講演 幕末維新期のカラフトにおける日本人とア

イヌ人……………秋月 俊幸

第十三回例会（六十三年九月）

講演 松浦武四郎と蝦夷地……………秋葉 実

研究会発足後の学会発表は十六題である。

現在会員は二〇人弱、道南地方の史跡探訪を計画している。

会員の皆様のご指導を心からお願いいたします。

（島田 保久）